

無精子症関連の遺伝子特定

男性不妊の原因の一つ「無精子症」について、細胞の核の中でDNAが巻き付いているたんぱく質の違いが関係していることを、中部大学などの研究グループがマウスを使った実験で明らかにした。米科学誌セル・リポーツ（電子版）に18日、発表する。

研究チームによると、このたんぱく質は「ヒストン」で、その一種を作る遺伝子「H3t」の有無

中部大などのグループ

が影響しているという。

ヒトなど生物のDNAは長さ1・8μmのひも状になっている。ヒストンは4種類あり、長いDNAをコードリールのように巻き付かせて直径10μメートルの細胞核の中に格納している。

ヒストンの遺伝子「H3t」はヒトでも確認されていて、精巣にだけ発現する。役割が分かっていたが、マウスを使った研究

で、体のほとんどの細胞にあるヒストンとは、わずかに異なるヒストンを作る遺伝子だとわかった。

オスのマウスの場合、H3tが無いと精子を作る元になる精子幹細胞はあっても、精子が全く作られない「無精子症」になることも明らかになった。H3tが無いマウスでは、メスとの交尾を確認しても全く妊娠しなかったという。

中部大学の上田潤助教は「男性不妊症のメカニズム解明につながる。将来的には、診断方法の開発につなげたい」と話している。

（月舘彩子）